

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

②施設・事業所情報

名称：あざみ野ひだまり保育園	種別：地域型保育事業	
代表者氏名：戸張 綾	定員（利用人数）：10名（9名）	
所在地：〒225-0011 横浜市青葉区あざみ野2-28-9 ルミナスミユキ201		
TEL：045-530-5776		
ホームページ：www.centerjp.com		
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2018年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社センター		
職員数	常勤職員：4 名	非常勤職員：6 名
専門職員	（専門職の名称） 名	
	園長：1名/常勤	事務員：1名/常勤
	保育士：6名（3/常勤+3/非常勤	調理員：3名/非常勤
施設・設備の概要	（居室数）保育室：1室	
	（設備等）トイレ：園児用/職員用、調理室：1室、事務室：1室、 園庭：無	

③理念・基本方針

<保育理念>

保育指針に沿った充実した保育と、保育士が働きやすい環境を目指します。

<保育方針>

あたたかいまなざしの中で、子どもたちがのびのびと過ごし、愛されていると実感しながら、自分の事を大切に思う心を育てていきたいと思っています。そして、他の人を思いやる気持ちと、自信を持って生きる力が育つことを願っています。

④施設・事業所の特徴的な取組

保育園と家庭の育ちの連続性を大切に、子どもや保護者の様子に配慮しながら保育にあたっています。特に4月は家庭で過ごしていた生活リズムを無理に変えようとせず、それぞれの家庭での過ごし方に合わせながら、少しずつ保育園の生活に慣れるよう配慮しています。

小規模の特性を活かし、保育者は子ども達に丁寧に関わり、寄り添うような保育を心掛けています。乳児期に必要なことは、一人でも多くの信頼できる大人と関わることだと思っています。大好きな人と一緒に過ごす中で、愛されていると実感し、自分自身を大切にすることが育まれるように関わっています。また、共に過ごす仲間と様々な体験を重ねる中で、して良い事やそうでない事が分かり、自分の行動を振り返ったり、友だちの気持ちに気付くなど、人を思いやる気持ちや相手の気持ちに共感できるような声掛け、

関わりを大切にしています。

給食では、メニューを伝えながら、どんな食材が使われているか、誰が作ってくれたかなどをお話しています。食材に触れる調理保育をすることで、より食に興味を湧くようにしています。また、食器を下げに行く際、「おいしかったよ」や「ごちそうさま」と調理してくれた人に感謝する気持ちが伝えられるよう促し、保育者や友だち以外の人との関わりが広がっていくようにしています。

全体的な取り組みとしては、毎年同じことをするのではなく、その年の子ども達の様子や興味に合わせてどんな事をするか考えて、あそびを提供しています。様々な素材を使った製作や感触あそび、身近な食材を用いた調理保育、夏祭りなどの体験を通して、イメージや感性が豊かになるよう工夫しており、0.1.2歳児全員で楽しめるもの、取り組めるものという事を大切にしています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和3年7月8日（契約日） ～ 令和4年4月4日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	一回（ 一 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1)子どもたちの成長が丁寧に記録され職員が共有しています

一人ひとりの子どもに対し、日々の記録とは別に月毎の主な成長の記録が取られています。月齢に応じた反応や、発達状況を見守る上でとても役に立つ記録情報です。子どもたちの成長を、個人別月案として、保育のねらい、配慮事項、前月の姿、今月の配慮を記録しています。言語や運動、人とかかわりなどに分類された50項目について、子どもができた時期や状況を記録して子どもの成長を見守っています。毎月開催の職員会議で現状把握と翌月に向けての課題・対応を話し合い、共通理解を図っています。日誌や個人記録の様式も、必要に応じて変更し、保育を多方面から把握・記録・保管して職員が共有できるようにしています。

2)保護者と写真や動画により子どもの成長を共有しています

日々の様子を連絡帳で知らせるだけではなく、写真や動画を通じて定期的に保護者に伝えています。子ども一人ひとりの3年間の記録を1冊のアルバムにまとめ、子どもの成長を保護者と実感できるようにしています。子どもの記録が継続した次の保育につながっています。写真や動画を保護者が共有することで、子どもの成長に役立てています。また、具体的な把握によって、怪我やアレルギーなどにも的確な対応ができています。

3)子ども一人ひとりを大切にしてい見守る保育につながっています

個々の成長を重視し、成長の個人差を把握しながら職員全体で見守る姿勢で取り組んでいます。自我が育つ時期に適切な言葉がけを意識し、やろうとする気持ちを大切に、職員が焦らずに向き合っています。発達状況を見ながら、手助けする部分を変えていくなど保護者にもそれらの様子を伝える事により、園と家庭の連携が図れ、成長の後押しに繋がる環境になってます。見守ることにより、子どもがお互い刺激しあって過ごし、トイレも早くにマスターしています。家庭の生活を大切に、子どもの発達に応じる見守る保育を実践しています。

◇改善を求められる点

1)職員の定着と人材育成のプログラム

保育の役割を担う職員の質が園の質に直結しています。保育理念にあるような「保育士が働きやすい環境」をさらに整備し、人材を確保することが求められます。職員が子どもたちに温かく寄り添い、質の高い保育を継続的に提供するために、小規模保育における職員の定着と人材育成プログラムの工夫が期待されます。

2)災害対策による安心した保育

園ではヒヤリハットの周知や対策を確認し、事故発生時には話し合いの場を持ち、改善策・発生防止に努めるよう会議で共有しています。マンションの2階に園があるため、火災などの災害の際への配慮が必要となっています。リスク対策としてリスク担当の選任や定期的な研修を行い、具体的な訓練の徹底などが期待されます。避難方法の周知徹底や避難梯子の体験などにより、職員と保護者が安心できる保育についての情報共有が期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園4年目で、初めて福祉サービス第三者評価を受審し、登園の提供している福祉サービスの質について、専門的かつ客観的な立場から評価をしていただきました。運営、保育内容、保護者支援等、様々な角度・視点で捉え、評価していただく中で、新たに見えてきたこと、不十分な点や改善が必要なが見えてきました。評価結果での指摘事項は、問題点を分析しながら解決に努めたいと思います。また、保護者の方々のご意見は、真摯に受けとめ改善すると共に、より安心していただけるよう、情報共有に努め、相互理解を深めながら運営していきたいと思っています。これからも質の高い保育を提供していかれるよう邁進してまいります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり